

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館の社是、経営理念を基本に捉え、ホームの目標を持って実践に繋げている。	利用契約時、家族に話をしご理解いただいている。社是、ホーム指針についてはホーム会議、ユニット会議にて唱和・確認し、地域の中に開かれた微笑みのある施設を目指し取り組んでいる。理念にそぐわない言動が職員にあった場合には状況を確認し、管理者がその都度面談し指導するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長さん、民生委員さんにご協力いただき、近隣の皆様と交流をすすめている。地域行事やイベントに参加したり、ホームの行事に参加いただいたり、地域の皆様との交流の機会を持っている。	協力費を納め区の一員として活動に参加している。ホームの行事案内や見学会、お祭等を回覧版で案内していただき区民の来訪もいただいている。近くの神社のお祭り際にはホームの駐車場で御神輿、踊りの披露があり利用者も楽しんでいる。ハロウインの時には仮装した幼稚園児がホームを訪れ、利用者も交流を楽しんでいる。毎月第二月曜日に公民館で行われる月曜サロンには職員付き添いで4~5名の利用者が参加している。楽器、手遊び、傾聴等のボランティアの来訪があり、利用者もふれあいの時を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館の元気づくり教室参加や、ホームの行事へ地域の皆様に参加していただき、ご入居の皆様と交流し、支援の様子などを見ていただき、認知症の方の理解や支援方法を伝えていけるよう、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況・活動・取り組み状況などを報告後、意見交換し、サービスの向上に活かしている。地域参加へもつながっている。	利用者家族、協力医、訪問看護師、塩尻市長寿課職員、山形村福祉課職員、法人支店課長、ホーム管理者、ユニットリーダー等が参加し2ヶ月に1回、参加者の都合に合わせて開催している。利用状況、事故やトラブル、転倒防止等について話し合い、協力医や訪問看護師からは健康、救急救命の対応の仕方、薬の対応等について助言、提案を頂いている。更に行事計画、活動報告などが行われ運営に役立てられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者への相談、報告やアドバイスをいただき、連携をとりながら、取り組んでいる。	分からないことがあれば市長寿課職員と連絡を取りながら進めている。介護認定更新調査は担当者が来訪し管理者及びケアマネージャーが立会い実施している。また、立ち会う家族もいる。市主催のケアマネージャー研修会、口腔ケア研修会には必ず出席している。2ヶ月に1回、市の介護相談員が来訪し利用者との交流の時を持ち、後日書面にて詳細な報告があり支援に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム会議、ユニット会議の話し合いやマニュアルを確認しながら、身体拘束への理解を深め共有し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	玄関は平日の日中は開錠されている。離脱傾向の強い利用者もいるが、寄り添い話をし、ホーム敷地内を一緒に歩くなどで対応している。転倒、落下防止を図るためにはどうしたら良いか職員間で話し合い少人数で対応するためのアイデアを出し合い、拘束しないケアに取り組んでいる。身体拘束や虐待防止についての研修会、話し合いが定期的に持たれ理解を深め取り組んでいる。	

ニチイケアセンター塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議・ユニット会議での話し合いやマニュアルを確認しながら、虐待について理解し、虐待が見過ごされることがなく相談できる環境であるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム会議で勉強会を持っている。現在、成年後見制度を利用されている入居者様もあり、職員全員で理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申し込み時から、十分な説明に心がけている。契約・解約時には不安や疑問点を尋ね、入居者様・ご家族様が納得して契約を締結・解約できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様に入居者様の様子をお伝えするよう心がけ、ご家族様からお話を聞く機会を多く持つよう努めている。また、面会時など、意見・要望を伝え易い関係・環境になるよう努め、運営に反映させている。	毎日の方から月1回ぐらいの方まで全家族の来訪がある。家族会は運営推進会議の後に必ず行い、意見をいただき運営に役立てている。特に家族からの苦情が大切であると捉え、意見の言い易い雰囲気を作り対応している。また、ホーム便りを請求書に同封し、家族に利用者の様子をお知らせしている。誕生日会については家族に案内を出し、できるだけ参加していただくようにし意見・要望などもお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、職員の意見・提案に耳を傾けるよう努め、ホーム会議・ユニット会議においても意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。	月初めにユニット会議、中旬にホーム会議を行い職員の意見や提案を反映させるようにしている。利用者の介護について、特に夜間の介護体制や安全確保等、積極的な意見交換の場となっている。人事考課制度、キャリアアップ制度があり、管理者による個人面談も行われ、提案、アイデア等も掘り上げ、評価に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から職員とのコミュニケーションに努め、良い点、改善点などその場で伝えられるよう心がけている。キャリアアップ受験を勧めている。面談やホーム会議・ユニット会議を通し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会・講習会への参加を促し、グループホーム合同の研修、ホーム会議での勉強会を持っている。チームワークを通じて、ケアの実践や力量による課題にも取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・講習会へ参加し、同業者との交流の機会を持ち、情報を交換し、より良いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前のご本人の生活の様子や環境を把握し、ゆっくりとご本人とコミュニケーションが取れるよう心がけ、ご本人の安心に繋がるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学や申し込み時から不安や要望などをゆっくり何うよう心がけ、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや面談時から、ご本人やご家族を含めた状況や要望の把握に努め、福祉用具や、外出支援などの他のサービスの提案、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いに気づき、思いに添えるよう努め、一緒に考えたり活動したりして、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族ともに入居されて良かったと思っただけのようなサービスを目指し、ご家族へのこまめな連絡とご意見をお聞きしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅での生活と変わらずにいつでも親戚や友人、知り合いの方など面会・外出を行えるよう、環境作りに努めている。	友人、知人の来訪があり名前を確認し受け入れをしている。電話をしたいという利用者には職員が手助けをし対応している。本年は絵手紙中心の年賀状に挑戦しようという意向があり送ろうという意向もある。家族と馴染みの店に外食に行かれる方もいるが希望に沿い職員がお連れするケースもあり楽しまれている。利用者同士で居室を行き来しコミュニケーションを取っている方もおり、旧知のような親しい関わりも見られるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム会議やユニット会議などを通じて、入居者様同士の関係を把握し共有し、互いに良い関係を築けるように手助けや配慮して支えあえるような支援に努めている。		

ニチイケアセンター塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、来所された時に話をしたり、入院先のケースワーカーと連携をとったり、いつでも相談していただけるような関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いに気づいていけるようコミュニケーションに努め、ユニット会議でご本人の要望、思いなど共有し、話し合っている。	意思表示の出来る利用者は三分の一ほどで、あとの方ははっきりとは思いを伝えることが難しくなっている。そのような状況ではあるが、利用者の表情を見ながら判断し、寄り添い、声掛けし対応している。居室にて1対1で接する時間を大切に、窓から景色を眺めたり花を見たりして気持ちを和らげ、その時のつぶやきなどを把握し応じている。また、利用者の言葉の内容を記録に残し情報として共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族の話や活動の様子などを通し、センター方式シートを用いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティングや毎日の介護記録、アセスメントシートから、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で、具体的なケア場面に反映できるよう話し合っている。ユニット内で入居者様の担当を決めて職員全員で関わっているよう、取り組んでいる。	職員はモニタリング担当として1名の利用者を受け持っている。本人の意向や家族の希望もお聞きし月1回のユニット会議で話し合いが行われ、長期目標の6ヶ月、短期目標の3ヶ月に合わせそれぞれ見直しをし、変化があれば随時の見直しを掛けている。また、会議で検討を重ね、利用者が気持ち良く生活出来るような計画作成に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践など、介護記録に記入し、職員間の申し送りノートを使用し、入居者様の変更事項や連絡事項など共有して、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況にも柔軟に対応できるように、職員間の意見交換を大事にしている。勉強会や話し合いの場を持ち、より良いサービスに繋がるように努めている。		

ニチイケアセンター塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。地域や近隣の皆様に恵まれて積極的に交流を図っており、安全でゆたかな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係構築しながら、適切な医療を受けられるように支援している	協定医の往診が月1回あり、医師とホームの信頼関係ができている。ご家族とこまめに連絡をとり連携をとっている。専門医などのかかりつけ医は、希望で受診継続されており、ご家族と連携をとっている。	ほとんどの利用者はホーム協力医の月1回の往診を受けている。歯科は近所に在り通院での対応となっている。24時間対応の訪問看護師の来訪が週1回あり健康管理を行い、協力医との連携も取れている。協力医、訪問看護師共に運営推進会議に出席しており、緊急対応や薬のことなどについても的確な指導を頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護で情報の交換を行い、健康・医療に関する相談や指導をいただいている。日頃の介護に活かし、適切な受診や看護を受けられるように支援している。緊急時も相談や対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のMSWと連携をとっている。入院先に訪問し、現状を把握するとともに情報交換を行い、退院に向けての対応などスムーズに進むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族の思いを大切に、主治医・訪問看護師とともに、話し合いを繰り返している。ご家族の協力のもと、ホームですることをお伝えしながら、ご本人・ご家族・医師・看護師とともに方針を共有して、チームで取り組んでいる。	重度化・終末期対応についての法人の指針があり利用契約時に説明し同意書を取り交わしている。開所以来2名の方の看取りをさせていただいたという。支援する中でそのような状況になった時には新たに看取り同意書を取り交わし、家族と話し合い協力を得て、訪問看護師、協力医との連携を取りながら利用者の気持ちや職員の気持ちに配慮しつつチームとして取り組んでいる。職員の看取り研修も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム会議やユニット会議で事例検討や、緊急時の対応について確認し、勉強会をもっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や近所の皆様の参加協力をいただき、避難訓練・初期消火訓練を行っている。区長さん、地域消防団員さんとともに、地域との協力体制を築いている。	回覧板で訓練実施の告知を行い、6月と11月の年2回、消防署員、区長はじめ近所の方の参加もいただき、初期消火や避難訓練などを実施している。消火訓練では実際駐車場にて消火器を使つての初期消火を行い、通報避難訓練では通報器を使い利用者を全員外へ出すなどの訓練を行っている。自力歩行不可能な利用者については職員が抱えて避難をしている。また、2階の利用者については毛布で包み1階へ下す訓練なども行っている。各ユニットで緊急対応マニュアルの確認を常に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し誇りやプライバシーを守る事はいつも根底にあるよう繰り返し職員に働きかけ、そのような言葉かけや反応ができるよう努めている。	プライバシー保護と個人情報の管理については研修会等を通して厳しく管理徹底している。人生の先輩としての利用者の気持ちを尊重しつつ敬意を持って接しプライバシーを損ねないように心掛けている。また、特にトイレ誘導や入浴介助については同性介助で気配りしている。呼び掛けは家族に確認し、基本的には苗字に「さん」付けでお呼びし、同じ苗字の方がいる場合は名前でお呼びしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表し易いように、また自己決定ができるような、ご本人に合った言葉かけや環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペース、思いを大切に、希望にそった時間を過ごせるよう支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のその人らしさを大切に、思いに気づき、身だしなみやおしゃれができるよう、ご家族様とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けは毎日の日課になってお願いしている。食事が楽しみなよう心がけ、季節の食材や行事に合ったものを取り入れている。	半数の利用者が全介助や一部介助で食形態はキザミ、トロミ、ミキサーの方が若干名ずつで職員が対応している。利用者の中の数名が後片付けのお手伝いを笑顔で行っていた。食材は週2回スーパーより配達されて来るが足りない物は買い出しに出掛け職員が調理している。誕生会にはケーキを食べ、お祭りにはお寿司を取って家族と一緒に楽しんでいる。また、多くの利用者は「うなぎ」が好物なので行事の時にお出し喜ばれている。野菜はホームの畑で採れたものや近隣からの頂き物を活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を毎回記録し、日々の介護に活かし、その日の体調にも合わせた食事を提供している。食事・水分が摂れない方やその機会が増えており、工夫しながら少しでも心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態を把握し、適切な口腔ケアが行えるようユニット会議などで話し合っている。ご本人ができるところはいただいている。協定歯科医による歯科診断や相談ができています。		

ニチイケアセンター塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態を把握し、ご本人の思いに添い、その方にとって適切な排泄支援が行えるよう日々の介護の中やカンファレンス内で話し合いを行い、職員間で情報を共有し、自立にむけた支援に努めている。	全介助の利用者が三分の一ほどおり、利用者の状況に合わせてリハビリパンツ及び布パンツとパットの併用などで対応している。排泄チェック表を用い基本的には毎食後と午前10時に利用者個々に合ったパターンで声掛けをしトイレにお連れしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協定医や訪問看護師より、アドバイスや指示をいただきながら、入居者様の個別のカンファレンスを行い、排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に沿った時間に入浴できるよう、入浴前に入居者様に相談してから入浴にお誘いしている。	基本的には週2回入浴できるようにしているが希望で3回入浴する利用者もいる。見守りでの自立がほぼ半数、全介助の方が三分の一、二人介助の方が若干名という状況である。入浴拒否の方もいるが言葉や時間を変えたりして工夫をしている。夏場はシャワー浴のみの方もおり、冬場は「ゆず湯」で入浴を楽しんでいる。中には家族と温泉に出掛ける利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活習慣を大事にして安心して気持ちよく休めるよう、支援している。主治医、協定医とも連携をとり、相談している。夜間のごまめな見回り・見守りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援について、皆で事例検討、再確認して取り組んでいる。薬の作用、副作用の理解、症状の変化の確認など、全職員が共有していけるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前のアセスメント時の聞き取りから、その方の役割、趣味、嗜好などの把握に努め、入居後も継続していけるよう、また、新たな楽しみを見つけていけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員間で外出支援の意識をたかめ、ご家族や地域の方にもご協力をいただきながら、できるだけ外出の機会を持つよう、努めている。	現在自力歩行の方、歩行器の方、車イスの方がそれぞれほぼ三分の一という状況である。日常的には近くを散歩したり、1階のテラス、玄関前の駐車場にて外気浴を楽しんでいる。春には交代で花見に出掛けている。園芸に人気がありホームの畑で野菜栽培を楽しんでいる。地域の「玄播祭」や「ハロウィン」の際には家族の協力もいただき外に出て見物を楽しんでいる。	

ニチイケアセンター塩尻

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは基本的に事務所でお預かりしているが、ご本人の希望に沿った買い物などできるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一緒に手紙を書いたり、勧めたりしている。電話は、ご家族の希望や様子をうかがいながら、ご家族の状況に配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が不快に思われぬ、また安全に過ごしていただけるよう、環境設備をするとともに、心地よい生活空間になるよう、会議などでも話し合っている。季節感を取り入れた共同制作作品など、居心地良い環境作り心がけている。	ホームの中に入っの第一印象は掃除が行き届いていて清潔であるということで、毎日掃除が行われ居間兼食堂、トイレ、浴室等、気持ちの良い空間となっている。特にキッチンが開所から8年経過したとは感じさせないほど掃除が行き届きピカピカに磨かれ気持ち良さを感じた。掲示板には外出時の写真が飾られ活動の様子が分かるようになっている。また、ホームのお祭りの際に披露された利用者の手によるぬり絵、貼り絵、色鼻紙を使った見事な作品などが数多く飾られ、生活感も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の様子を把握しながら席の位置や環境作りの工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や大事なぬいぐるみ、写真などを活かし、ご本人、ご家族と相談して、快適な空間作りを意識している。	ルームエアコンや大きなクローゼットが完備されている。居室は職員の手により毎日清掃が行われ綺麗に整理整頓され快適な生活空間となっている。一人ひとり使い慣れた家具やテーブル等を配置し、家族の写真やぬり絵等の自分の作品に囲まれ安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の「できること」「わかること」を職員が把握し、残存能力を活かす支援ができるよう、努めている。		